

D-21 新築農家住宅における住まい方の研究(第3報)

新築農家住宅における寝方について(2)

九州大工 岡 俊江

はじめに 近年の新築農家住宅は、接客空間と家族住生活空間を明確に分離した中廊下型平面が一般的になってきている。本研究は、四間取り等の従来の平面型とは異なる新しい住宅平面の中で、住生活がいかに展開されているか、その実態と問題点を明らかにし、あわせて、今後の農家住宅計画の指針をえようとするものである。

目的 本報は、中廊下型住宅ではどのような寝方がなされているかを、①家族構成のちがいによる就寢室のとらえ方のちがいの有無 ②1階と2階の就寢室の選択傾向と要因 ③老人の就寢室のとらえ方、の3点から明らかにし、就寢空間配分の指針をえることを目的としている。

方法 寝方は平面構成と家族構成によって規定されるので、この2つを指標に分析考察した。調査対象は、福岡、佐賀両県の4集落で昭和40年以降に新築された農家49戸で、昭和52年10月上旬～11月下旬に49戸全戸の住まい方調査を実施した。

結果 ① 夫婦寢室は、家族構成のちがいとくに核家族か複合家族かで、とらえ方にちがいがある。核家族では奥の次の間か北面する専用室が夫婦寢室に多く使われ、複合家族では、老人室の有無によって異なっている。

② 夫婦寢室、老人室ともに1階に設けられる傾向にある。

---

参考：新築農家住宅における居間の使われ方について (岡、家政学研究 vol.25 No.2)